

鬼滅の刃の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	鬼滅の刃の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	鬼滅の刃を読んだことのある20代～50代の男女10名
調査期間	2024年10月8日～2024年10月10日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 鬼滅の刃の面白いところやいいところなどの感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

回答	回答数
20代女性	3名 (30%)
30代女性	4名 (10%)
40代女性	1名 (10%)
30代男性	2名 (20%)

Q2: 鬼滅の刃の面白いところやいいところなどの感想を教えてください。

正直、この作品を読む前は『鬼』とか『戦い』とか興味ないんだよなあ。だからそんな私が読んでも楽しめないかなあと考えていました。でも、あまりにも世界中で人気ですし、私の周りでも年齢性別問わずさまざまな人に支持されているので、ついに思い切って読んでみることに。すると、もう一瞬でハマってしまいました。まず、なんといっても絵が美しいです。『鬼』や『戦いシーン』があるため、当然『血が噴き出るようなシーン』もあります。でも、作者の絵が上手いこと、そしてグロすぎる表現がなく、さらに比較的笑えるシーンが多いため、全体的に明るい雰囲気、気持ち良く読むことができます。次に何といっても読者を飽きさせないストーリー展開が素晴らしいです。さまざまな障害、困難、壁にぶつかるのですが、皆で支え合い、助け合い、一つひとつ確実に乗り越えて、どんどん精神的にも肉体的にも強くなっていきます。私はその諦めない姿勢、勝利する姿に勇気と元気とやる気をもらいました。この作品を読み終えるといつも「よし！私も頑張るぞ！」と思いますし、「私ももっと家族や友人を大切にしよう」と思うのです。何度も何度も読みたくなる、そして自信を持って人に薦めることのできる素晴らしい作品です。

鬼滅の刃は最初アニメから入ったのですが話が面白すぎて漫画を一気読みしました。本当に炭治郎の優しさやねずこのかわいさなど見どころ満載で展開されていくので非常に面白いですね。鬼舞辻無惨という存在が人を鬼化させていくというわかりやすい展開が物語の核になっていて炭治郎の鬼退治が白熱していくので先の展開から目が離せませんね。

鬼滅の刃、めっちゃ面白かったです！炭治郎が家族を鬼に殺されてしまって、妹の禰豆子を人間に戻すために戦う姿が感動しました。鬼との戦いが迫力満点で、ハラハラドキドキが止まらなかったです。特に、煉獄さんの最期のシーンは、優しくて強くてカッコよくて、涙が止まりませんでした。友達にもおすすめしましたが、みんなハマってしまって、一緒に続きが読みたいって言うてくれて嬉しいです。鬼滅の刃を読んで、友情や家族の絆の大切さを改めて感じました。

炭治郎の成長や仲間との絆が作品内では強調されていて、彼の優しさが鬼との戦いに深みを加えていると思います。特に禰豆子との姉弟愛が素晴らしく、彼女は鬼でありながらも人間の心を持つ描写が印象的です。またキャラクターたちの背景がしっかり描かれているので、彼らの苦悩や成長を感じられるのも良いところです。戦闘シーンでは呼吸法や技の美しさが見どころで、緊迫感があります。ただの戦闘漫画ではなく、家族愛や友情をテーマにした感動的な作品だと思っています。

世間で大ブームになったことをきっかけに、お試し感覚で読み始めました。

一巻の段階では正直ストーリーが暗すぎて若干しんどさを感じていたのですが、読めば読むほど設定の作り込み、敵である鬼たちのキャラクター性の深さに引き込まれていきました。

単純な勧善懲悪では終わらない、正義と責任について深く考えさせられる内容で本当に面白かったです。

私自身ジャンプは好きで普段から購読を続けているのですが、本作ほど連載中に中弛みやグダグダ感を感じさせなかった作品は他にありませんでした。

鬼殺隊の皆や鬼たち、キャラクター一人一人が皆信念を持って動いてるのが分かるので、とても共感できるし応援したくなるんですよ。

もはや知らない人は日本に居ないと言い切れるほどの有名作品ですが、本当に素晴らしい漫画なので食わず嫌いしてる方も是非一度は読んでみてほしいです。

「鬼滅の刃」はアニメから入り、その面白さに引き込まれて原作を一気に読みました。キャラクターたちが魅力的で、また敵にもしっかりとしたバックストーリーがあり、のめり込んでしまいました。最終巻まで一気に読んだのは久々です。個人的に大好きなのはやっぱり柱の戦闘シーン。どの柱もカッコいいですが、やっぱり義勇さんが一番カッコいい。もう何度も読み直してます。

連載が始まった初期から個人的に注目していた作品でした。

とにかく炭治郎がカッコよくて、近年のジャンプ作品の主人公の中ではトップクラスに好きな主人公です。

揺るぎない信念と迷い、その相反する二面性を抱え込んでいる人間臭さ、それでも前へ進もうとする強さが炭治郎の魅力だと思います。

もちろん炭治郎以外にも素晴らしいキャラクターがたくさん登場するため、非常におすすめです。

流行っていたので読んでみましたが、最初読んで戦うありきたりな物語かとおもいましたが、読んでいくうちに止まらないくらい夢中になりました。まっすぐな人を思いやれる主人公や鬼一人一人の人間だった頃の記憶、思い、鬼滅隊一人一人の思いや過去、それぞれの人生が丁寧に書かれており、道徳の教科書と言ってもいいくらい人の大切な思いが詰まっている作品だと思いました。

鬼滅の刃はもともと普通の人間だった人が鬼になってしまい、またその鬼になった人が人間を襲っていくストーリーです。鬼になりたくてなった人はおらず、鬼側にも悲しい過去やつらい思い出があり、単に鬼が悪くという内容ではない点が見えていて深いと思いました。仲間と一緒に鬼も人間も戦っているシーンはカッコよさも、見ていてワクワクする作品です。